

佳作

最後の中総体を迎えるあなたへ

山形県戸沢村立戸沢学園

8年 松坂 夏岬

最後の中総体を迎えるあなたへ。7年生の春、「バレー部なんて絶対入らない！」と思っていた私。それまでは陸上一本でやってきて、球技はおろか、チームプレーの経験のない私にバレーボールができるなんて、思ってもいませんでした。

しかし、先輩の部活紹介を見て、「挑戦してみたい。」という気持ちに変わりました。実際に体験入部に行ってみて、自分ができるとは思ってもいなかったオーバーハンドパスやアンダーハンドパスが日々上達していくことがとても楽しかったです。先輩にほめられ、さらに楽しさが増し、バレー部に入りたいという気持ちが強くなりました。

そして、9年生が引退し、新チームで新人戦を迎えました。そこで私は、6番のユニフォームをもらい、レギュラーとして出場することになりました。実際に試合に出て、自分の無力さを痛感。練習どおりにできない。手足が、自分の思うように動かない。どう動いたら良いか分からない。それに、初めての試合で緊張しておどおどしてしまい、先輩の足を引っ張ってしまいました。できないことだらけでした。新人戦は、惜しくも負けてしまいました。とにかく悔しさが込み上げてきて、家に帰る前に、涙が止まらなくなってしまいました。

この日から私は、試合でできなかった反省を生かし、いろいろなことに挑戦しました。サーブが確実に入るようにフォームを意識し、部活の際には、サーブを打つ本数を増やしました。練習試合では、積極的にスパイクに挑戦したり、声を出したりしました。何よりも私が一番努力したことは、わからないことを「わからない」と人に伝えることです。私は困ったことやわからないことを口にするのが苦手でした。今までは、言わずにやり過ごしてきてしまいました。しかし、「チーム」の一人として、このままでは私がチームの足を引っ張ってしまうと気づき、勇気を出して先生や先輩にわからないことを聞けるようになりました。部活動や練習試合がない時は、家で自主練習をしました。例えば、体力をつけるために3キロ走ったり、オーバーハンドパスやアンダーハンドパスの直上練習をしたりしました。努力は重ねたけれど、その後の練習試合でも負けが続いてしまいました。試合を重ねるたびに自分の課題が見つかり、何度も壁にぶつかりました。壁にぶつかるたびに、打ち壊す努力を続けました。

ある日、試合に向かうためのアドバイスを先輩に聞いた時のことです。何と

言ってくれたかあなたは覚えていますか。

「夏岬はもっと自信持ってプレーしていいんだよ。がんばれっ！」

そう言ってくれました。ずっと先輩の足を引っ張っていると思っていた私は、認められたことが実感できてとても嬉しかったです。

そして迎えた、8年生での中総体。結果は全敗に終わりました。しかし、その中でも成果がありました。大蔵中の強いスパイクをレシーブすることができ、相手を崩すサーブを打つこともできるようになりました。新人戦ではできなかったことが、中総体ではできるようになり、今まで自主練習や部活を頑張ってきた良かったと心から思いました。

9年生になったあなたは今、中総体をどのように迎えていますか？ 新チームとなり、自分たちがチームを引っ張る立場になって、先輩にどれだけ支えてもらっていたかを実感しましたよね。あなたは、7・8年生をリードすることはできましたか。自分たちで、積極的に練習を進めることはできましたか。自分たちのバレーをすることはできましたか。楽しくバレーをしていますか。中総体を迎えるまで、いろいろなことがありましたね。自分の無力さが悔しくて、サーブの練習を今まで以上に頑張ったり、スパイクや声出しを積極的に頑張ったりしましたね。

今まで努力してきたことを、この中総体にぶつけ、悔いの残らないようなプレーをしてきてください。最後には、チームみんなが笑顔で終われるように、最後まで諦めず頑張ってください。そして、困った時に解決しようとする力、壁にぶつかった時乗り越えようとする気持ち。仲間を大切にするチーム力。最後まで諦めない強い気持ち。3年間バレー部でつけた力を、受験や高校生活、将来の夢に生かしてください。

1年前の私より。